**説教20240121アモス3：1-8マタイ4：12-23「イエスの伝道」**

**今日のマタイの聖書箇所は、この地上でイエス様ご自身が伝道をされた場面です。それで伝道とは何なのかということを改めて、考えてみますと、イエス様もおっしゃった、「悔い改めよ。天の国は近づいた」ということを、私たちもこの地上で言い広めていくということです。と言っても、言い回しや口調は、時に応じて変えながら、折が良くても悪くても伝え続けるということです。**

**一生涯の課題として、何かを伝え続けるということは、その人に希望と活力を与えることでしょう。先日、近所で「社会を明るくする運動」の講演会がありまして、有名な徳田弁護士が講演をされました。先生は刑事裁判の弁護士として裁判に関わられると共に、保護司として、刑事罰を受けた受刑者の出所後の立ち直りを促す仕事にも従事されました。**

**元受刑者が、刑期を終えて社会に出て、立ち直って社会生活を送れるようになる割合は、1から2割だそうです。それ以外の８から9割の人は、立ち直ることが出来ず、再び罪を犯しまうなどされるそうです。**

**徳田先生は、弁護士の仕事が、裁判の時だけで完了するのではなく、犯罪を犯してしまった受刑者の立ち直りを見届けることによって完了するのだという、強い信念をもって、若い頃より仕事をして来られたそうです。**

**どんな凶悪な犯罪を犯した者でも、必ず立ち直ることが出来る、と言うのが先生の確信です。ですから、統計的には、１から２割であっても、先生は、目の前にいる元受刑者が立ち直れることを信じて、見捨てることなく、色々と言い聞かせ又、彼彼女らに援助の手を差し伸べて来られたそうです。**

**立ち直ることが出来た元受刑者たちには、共通したことがありました。それは、一人でも二人でも、その元受刑者のことを、心から憐れに思って、涙を流してくれる人がいたということです。その涙を流してくれる人と言うのは親族の時もあれば、学校の先生の時もあったそうです。そして元受刑者と彼ら彼女らとの心が触れ合った時、何にも勝る立ち直りへの強い意志と行いが、元受刑者にあらわれたということです。**

**ここのところが、伝道ということと似たところがありますので、引き合いに出させて頂きました。私たちは徳田弁護士の様に、世の人に、悔い改めをすすめ、その人がイエス様と出会えることを促しています。私たちも涙を流しながら世の人に悔い改めをすすめて、そして、その人が悔い改めて、イエス様と出会って、イエス様と心が触れ合ったその時に、悲しみが喜びへと変えられ、共にイエス様の道を歩む者たちとされるのです。**

**この様にクリスチャンがこの世に生きる目的は、実にシンプルです。自分もかつて味わった、イエス様と出会った喜びを、素直に、隣人たちに伝え続けるという、それだけなのです。でも、私たちは正直言って、時には伝道することが嫌になります。それはなぜなのかと考えますと、その理由は、先ほど申し上げた１～２割と言う数字にあるのだと思います。伝道の場合はもっとその数字は小さくなります。現状では１００人に伝道して１人に伝わるかどうかと言ったところでしょう。**

**私たちは、数字ではなく、イエス様に近づく喜びに心を向けましょう。一人の人がイエス様に近づいていくその喜びは、統計的な数字の大きさとは比べ物にならない程の大きな喜びです。私たちは、そのことを幼子の様に喜びながら、この世をクリスチャンとして歩んでいるのです。**

**そして伝道は一人ではできないことです。罪人の為に、涙を流してくれる人は、居ることでしょう。この私も罪人と向き合って涙を流す人の一人です。しかしながら、その罪人ご自身が深く心に留めている人は、この私ではなく、又、別の人であることが多いのです。そしてそういった人と人との間で心が触れ合うことが大事なのです。ですから、伝道と言うのは一人の優れた伝道者の能力によってすすめられるというよりは、多くの人の心の相互作用によってすすめられ、いわば網が打たれて、救い上げられていくということでしょう。**

**伝道にはいろいろなキッカケが伴います。イエス様が「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って大々的に、宣べ伝え始めたのにもキッカケがありました。そのキッカケはマタイ福音書４章12節に記されています。**

**イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。**

**この様にイエス様はガリラヤ地方に居を移してから、大々的に伝道を開始されたのでした。13節にわざわざ「ナザレを離れ」と記されているのは、イエス様が生まれ故郷のナザレとは距離を置いたということです。といいますのはイエス様は伝道を開始する前の３０歳までは、このナザレで、両親に仕えて暮らしておられたのでした。そのナザレでの生活で、イエス様は知恵が増し、背丈も伸び、神と人とに愛されたということです（ルカ2：51）。**

**こんな風に聖書には、イエス様が一人の人間として、この地上で生涯を送ったその人生が記されており、人としてのイエス様は、私たち人間と何ら変わることがないライフステージをこの地上で送られたのでした。**

**それにしてもなぜイエス様はヨハネが捕えられたと聞いて、それをきっかけとして伝道を始めることになったのでしょうか。ヨハネとイエス様は親戚であり、ヨハネはイエス様の６か月年長であったからでしょうか。その理由ははっきりとはしません。**

**その代わりに聖書には、イエス様の伝道は、イザヤの次の預言が実現した確かなこととして記されています。**

**「ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」つまり昔イザヤがこの様に預言した事の実現として、イエス様ご自身が大きな光として、ガリラヤ地方に姿を現されたということです。**

**異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者たち、とイザヤは言いました。死の陰の地と聞きますと、何か行き詰った、陰気な社会を思い描きますが、実は当時のガリラヤは物質的には栄え、人々の往来も激しく、交流も盛んで、ローマから見ればエルサレムよりもはるかに有望な地とされていました。**

**しかし、それだけにガリラヤにはこの世の誘惑も多くあって、偶像崇拝もはびこっていた土地なのでした。物質的な栄えに目を奪われて、イエス様と言う大きな光を見失っているということは、現代社会に生きる私たちにとっても決して他人ごとではありません。**

**ですから、「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ」というイザヤの昔の預言は、今を生きる私たちの耳にも直接響いて来る神の言葉なのです。**

**さてこの時の、イエス様の伝道の様子を見て参りましょう。**

**マタイによる福音書4章 18節**

**イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。**

**イエス様はこの時ガリラヤ湖のほとりをぶらぶらと歩いておられたのでしょうか。その時のイエス様のは想像するしかありませんが、もちろんイエス様ご自身が大きな光ですので、そんなにあくせくすることも意気込むこともなく、ゆったりと歩いておられたことと私は想像します。そして、イエス様は網を打つシモンとアンデレに目を留められました。この二人は先週のヨハネ福音書の説教でも登場しました。**

**イエス様はこの時、シモンとアンデレと言うこの二人が、イエス様と言う大きな光を見ることが出来る者たちであることを知っていて声を掛けられました。**

**「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」**

**中国から来た故事成語に、らす仲と言う言葉がありますが、これは互いに心の底を打ち明け合える間柄のたとえです。この様に、イエス様とシモンそしてアンデレは、たちまちのうちに肝胆相照らし合って、共に歩む者たちとされたのでした。**

**今の様に社会が固くなってしまう前までは、会社が人を雇うのにも、そこらへんに歩いている若者の姿かたちに惹かれて、声を掛けて従業員にして働かせれば、期待通りによい働きをしてくれた、と言った事例がよくあったそうです。今の常識から考えれば、一笑に付されてしまいそうな事例ですが、私たちは伝道ということを考える時、その様に、人の内側にある物事を見抜くイエス様というまことの光に照らされているのだ、ということを抜きにしては実は何も行うことは出来ないのです。**

**そして、イエス様は次にヤコブとヨハネの二人に声を掛けられました。イエス様はこの二人のことも、イエス様と言う大きな光を見ることが出来る者たちであることを知っていて声を掛けられたのです。**

**そしてこの二人はその時何をしていたかと言いますと、舟の中で網の手入れをしていたのでした。先の二人が湖で網を打っていた姿と較べれば、この二人は目立たないところで網の手入れと言う地味な仕事に従事していたのでした。**

**この様に、イエス様は湖で網を打つといういわば華々しい仕事をしている二人だけではなく、船の中で地味に網の手入れをしている二人にも同じように目を留められたのです。**

**イエス様は出会った人の外側も内側も全て、たちまちお分かりになるお方ですので、この時全てを見通されたうえで、この４人に声を掛けて従わせたのでした。**

**一方で、イエス様は、ガリラヤ湖のほとりを歩いていて出会った全ての漁師たちに向かって「悔い改めよ。天の国は近づいた」と宣べ伝えていたのでは、なかったでしょう。**

**たとえ、「悔い改めよ。天の国は近づいた」というイエス様の言葉を聞いたとしても、この４人の漁師たちを除いては、誰もピンとこなかったことでしょう。この時は、４人以外の漁師には、未だその時は来ていなかったというほかはありません。**

**それから、イエス様はこの４人と共に、ガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされました。ここでイエス様の伝道は、又新しいステージに入れられています。**

**各地を回って、教会で教え、御国の福音を宣べ伝え、イエス様が民衆のありとあらゆる病気や患いを癒される御方であることを告げ知らせることは、今の私たちにイエス様が託されている伝道そのものです。**

**そして、聖書を知っている私たちは、この後、イエス様が人々の嫉妬心によって、十字架に架けられ苦しみを受けられたことも知っています。そしてそれから三日後によみがえられて天にのぼって、今は、父なる神の右に居られることも知っています。**

**この様に全てを知らされて居る私たちには、伝道をすすめていく上で、それぞれの人に、様々なステージが用意されていることでしょう。イエス様ご自身も30歳までは大々的に伝道なさらず、30歳になってから父なる神によって与えられた道に従って、伝道を開始し、この地上で十字架に架かられ、そして永遠の命に復活されました。**

**私たちもそのイエス様の道から外れることなく、たゆまずに、それぞれに今、与えられている伝道のステージをすすめて参りたいと願います。**

**祈り**

**神よ、あなたの良き知らせを告げ知らせる伝道の業を祝し守って下さい。しかし私たちは、成果が上がらないからと言った理由で、つまづいて、諦めてしまいます。どうか、私たちに成果ではなく、救いの喜びを求めさせて下さい。あなたにあって喜ぶ者とともに喜び悲しむ者と共に悲しむ生活を送らせて下さい。**

**憐れみ深い主よ、どうか今打ちひしがれ、困難な状況にある方々を励まし、恵みをお与えください。悲しみのある処に喜びを、争いのある処に平和をもたらして下さい。**

**あなたによって罪を打ち砕かれ、悔い改めた人は幸いです、どうか全ての機会を用いて悔い改めへと導かれるあなたを信じ、あなたに近づく喜びを、私たちにお与えください。**